

2023 年春学期語学留学 クライストチャーチ工科大学

帰国生アンケート

※注意※ ここで紹介されているアンケート回答は**全て個人の主観によるもの**であり、あくまで『参考情報』としてみなさんに開示しています。**正しい情報とは限りません**ので、その点について了承した上で留学準備に活用してください。

1. 授業について

授業の形態や進め方はどんなものでしたか。

英語の文法は基礎的なものでした。教科書やプリントを使って授業を行っていました。スピーキングは、クラスメイトとの日常会話、そして習った文法を使いながらゲームで実際に話す、ということをしていました。

初日にテキストブックを配られ、その順番に授業が進んでいった。午前中は主に文法を習い(それに関連するアクティビティはスピーキングやリスニング、リーディングなどがある)、午後はスピーキングやリスニングを主に行った。

学校から配布された教科書に沿って、基礎的な文法や日常会話などを重点的に学んだ。授業ではグループワークやペアワークの活動が多かったため、更に高い英会話スキルが身についたと感じる。チャプターごとにそれぞれトピックが設定されており、どれも楽しい内容だった。約1~2週間で1つのチャプターを終える。授業の最初30分程はウォーミングアップとして英語の簡単なゲームをしていた。また、課題はとても少なく、内容も簡単だったが、1か月に1回は小テスト(リーディング・リスニング・語彙・文法)があった。

午前中は Grammar, Listening, Reading, Writing 中心で、午後は主に Speaking でした。

午前の授業は最初に文法の説明があり、それに関する文法問題、スピーキングの練習をした。午後はペアワークやディベートがほとんどだった。

クラス人数、日本人と留学生比率、留学生の出身国などについて教えてください。

クラスの人数は20人ほどで、ほとんどが日本人でした。あとは、タイ、フィリピン、ベトナム、チリ、中国の学生もいました。

クラスは約20名ほどで構成され、多くは日本人だった。関西外大生(8名)以外に帝京大学の学生も数名同じクラスだった。しかしもちろん外国人クラスメイトも数名おり、フィリピン人1名、ベトナム人1名、中国人2名、タイ人2名、ブラジル人1名、スペイン人1名、ドイツ人1名だった。

クラスの雰囲気はどんなものでしたか。

クラスの雰囲気は、やはり日本人が多いので日本語が結構飛び交っていました。そして、ほかの国の方は勉強に熱心で積極的なので、授業で発言するときは本当に積極的にいかないと、発言する機会を逃すと感じた。日本人が多かったのにもかかわらず、多国籍でみんな仲の良いクラスだったと思います。

カジュアルな雰囲気、日本と比べ発言の機会はずごく多かったように思う。ゲームやアクティビティを通して問題に慣れたり、考えを深めたりする機会が多かった。

皆和気あいあいと授業に励み、国籍が違うクラスメイトとも仲良く学校生活を過ごした。お互い母国の言葉や文化などを教え合ったりし、他国について沢山知る機会があった。日本との大きな違いは、日本(関西外大)では、必修授業のディスカッション以外は日本語を使うことが当たり前だったが、留学中は日本人以外のクラスメイトもいるため授業以外(普段の友達同士の会話など)も英語を使っていたことだ。

積極的に発言する学生がとて多く、グループディスカッションが多かったと感じました。

日本の授業と違うところは基本アクティビティや会話などから授業を始める。話し合いや意見交換などが多いようにも感じた。

授業内でペアワークやディベートが多かったため他国出身の留学生と交流する機会がたくさんあり、とても明るい雰囲気だった。疑問に思ったことも聞きやすかった。

先生が一方向的に話すことが多かったが、スピーキングの時間には英語で会話することを忠実にできている人が留学生を含め多かった気がする。

授業の中で取り上げられたトピックで印象に残っているものは何ですか。

二人の人物のストーリーの動画を見て、リスニングで問題を解いたりすることがあったのですが、そのストーリーがとても面白くて、みんなこの授業を楽しみにしていました。その動画は現実に近い内容なので、教科書では学ぶことができないような言い回しなどを知ることができて、私の中では一番印象に残っています。

留学先がニュージーランドであったため、ニュージーランド映画の予告編やその映画に出演している俳優のインタビューを聞く授業があった。ニュージーランドの英語は日本で勉強してきたアメリカ英語とは発音・表現が少し違う

主に午後の授業で取り扱われていた、「ロボとジェニー」についてのトピックが1番印象深かった。このトピックは、簡単に言えばラブコメディ要素を少し含んだドラマのようなもので、毎回ストーリーが進んでいく仕組みだった。英語の勉強(主にリスニング)もしつつ、ストーリーも楽しむことができた。

ショートムービーを観ながら学ぶトピック。

授業の教材でステレオタイプが取り上げられ、それについて話し合ったり、世界中の迷信を紹介し合ったときは面白いと思ったし盛り上がった。

自分の出身地について英語で紹介するという授業が印象に残っている。日本についてはもちろん色々な国の観光地や文化について知ることができた。

イギリス英語とアメリカ英語の違いが一番興味深かった。ニュージーランドに来て生活の中で話す言葉が知らずにイギリス英語だったことや、逆にアメリカ英語の言い方はニュージーランドではこんな言い方をするというような違いは印象的だった。

授業を受けるにあたって工夫していたこと、努力していたことはなんですか。

わからない単語が聞こえたら、スペルがわからなくても、とりあえずすぐにメモをすることです。そして、後から調べてみて、メモに正しい意味とスペルを書き直すということをしていました。

できるだけ英語を話し、発音をすぐに真似ること。

なるべく日本人ではなく他の国籍のクラスメイトと話すように心がけていた。それぞれ国によって英語の発音やアクセント、イントネーションが異なるため、英語をスムーズに聞き取り、会話することは正直難しかった。しかし、分からない単語や聞き取れなかったことは躊躇せず聞き返し、理解しようと努力した。

間違えてもいいので積極的に発言するよう努力していました。

わからないことは残さないようにしていた。分からなかったら友達か先生、ホストの方たちに聞くようにしていた。

授業内では日本人同士でも必ず英語でコミュニケーションをとった。また、疑問に思ったことがあったときは翌日に持ち越さず、その場で質問して解決するようにした。

何より課題が少なかったので自分で図書館に行って勉強した。わからないことは調べるより先にホストに聞くことを意識した。

2. 滞在先・自由時間の過ごし方について

ルームメイトはいましたか。	ルームメイトはどこの国の人でしたか。	通学手段	通学時間
0人		バス	0-15分
0人		バス	30-45分
0人		徒歩	30-45分
1人	日本(一週間のみ同じホームステイ先に滞在していた)	バス	30-45分
0人		バス	30-45分
0人		バス	15-30分

0人		バス	45-60分
----	--	----	--------

部屋に用意してあったものは何ですか。	自分で用意したものは何ですか。
ベッド、机、ヒーター、クローゼット、椅子、タンス、テレビ	服やスキンケア、アイロンなど、自分が日常で使うものはすべて持っていました。
ベッドと小さい引き出しのついた机、クローゼットなど。	ヘアアイロンや薬など。
勉強机、椅子、文房具、クローゼット、ハンガー、籠(服などを入れる)、ベッド(ダブル)、エレクトリックブランケット(ベッドの下に敷いてある)、枕、自分用のバスルームとトイレ、ドライヤー、シャンプー、コンディショナー、ボディソープ、ハンドソープ、バスタオル、バスマット、ハンドタオル、箱ティッシュ	化粧水、クレンジング、メイク道具、ハンドクリーム(現地はとても乾燥する)、ルーム用スリッパ、充電器、衣類、医薬品、生理用品など。
机、棚、ベッド、ハンガー、タオル類	筆記用具、パソコン、変圧器
ベッド、机、椅子、クローゼット、ハンガー、ヒーター	ファブリーズ、バスタオル
ドライヤー、ハンガー、タオルなど必要なものはほとんど用意されていた。	ヘアアイロン、スキンケア用品など
クローゼット、タンス、ベッド、ヒーター、机椅子などの生活に必要な家具は基本全て用意してあるし、タオルやドライヤーなどは貸してくれた。	コンセントや服系、その他身の回り品

ホームステイ生活をする上で、日本と違って戸惑ったこと、驚いたこと。

夜ごはんの時間がとても早いということです。だいたい夕方5時半から6時の間には夜ご飯を食べ始めていました。あとは水をすごい大切にしているので、洗い物は水をシンクにためて、そこに洗剤を入れて、泡がまだついた状態で、泡を洗い流さずにタオルで拭きます。この2つはびっくりしました。

食器を洗剤で洗った後は水で流すことをしない、またニュージーランドの人は寝るのがとても早く、9時半ごろにはベッドに入る。

1つ目は、ニュージーランドの人々は基本的に朝にシャワーを浴びるということ。2つ目は、土足からスリッパに履き替えるタイミングが分からないこと。家によって土足で過ごすてよいのか、それともスリッパに履き替えなければならないのが異なるので、それに少し戸惑いを感じた。3つ目は、あまり賞味期限を気にかけないこと。私の友人達の家では、何週間も経ったカップケーキや傷んで柔らかくなったフルーツなどをランチに持ってくることもあった。

シャワーの時間が10分以内

基本シャワー

夕食、就寝の時間がとても早い。

大人でも夜11時には寝ることが多かった。他の家庭シャワーと違ってシャワーの時間も決められておらず、それ以外適応できる範囲内で基本的に困ったことはなかった。

ホームステイを快適に過ごすためのアドバイスをお願いします。

ちゃんと自分が無理しないような環境を作ることです。私は自分の中で一日の大体のスケジュールを決めていました。一人の時間はとても大切だと思うので、その時間は適度にとれるように大体の自分の部屋に行く時間を決めていました。しかしその時間をあまりとりすぎるとは、ホームステイの意味がないので、夜の寝始める1時間前から、自分の部屋に行くようにしていました。

自分はゲストではなく家族の一員として迎え入れてもらっているという意識を常に持つことが重要。考え方や文化が全く異なるため、辛いことは多々直面するが、「郷に入っては郷にしたがえ」という気持ちを持って生活することで最終的に自分自身の成長に繋がりと、ホームステイ先でも快適に過ごせるようになってくる。

嫌いな食べ物や生活する中での欲求(改善してほしい点など)は我慢せずに正直に伝えることが大切だと思う。日本のように、いつか誰かが察してくれるという概念は通用しない。逆に自分の意見を言わずに、何でも Yes で終わらせたり、ただ微笑んでいるだけでは相手に失礼だと感じた。思いきって自分から話しかけ、自分の思いを伝えることで、ホストファミリーとさらに良い関係を築くことができる。

どんなことでも話題にしてホストファミリーとたくさん話すこと。

ホームステイの方たちと仲良くなりたければ、とにかく一緒に行動したり積極的に話す。

ホストファミリーと積極的にコミュニケーションをとり、信頼関係を築くことが最も大切だと思った。信頼関係を築くことができればわからないことや、困ったことがあった時すぐに助けしてくれるし、本当の家族のようにリラックスした時間を過ごすことができる。

とにかくホストとの会話を増やすことと、何に対しても興味を示して見てるだけの姿勢をやめる。家庭にもよるが任せっきりでなく基本的な家事は自分でやるか手伝う。

パソコンは持参しましたか。	携帯電話	インターネットは部屋から接続可能でしたか。	その際に費用はかかりましたか。
はい	日本から SIM カードを持参	不明	
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	不可能	
はい	日本の携帯をそのまま持参	ワイヤレスで可能	いいえ
いいえ	留学先で SIM カードを購入	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	留学先で SIM カードを購入	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本の携帯をそのまま持参	ワイヤレスで可能	いいえ

大学主催のプログラム/イベント/ボランティア/サークルなど。	学内/学校近辺でよく利用した施設やお店など
大学では毎週木曜日の放課後に、日本人留学生と日本に興味のある現地の大学生が関われる活動があった。しかし個人的には大学外のカフェで月1~2回行われる Language Exchange event がより色んなひとと関わることができ、異文化交流も英語の勉強にもなったと感じる。	カフェがたくさんあるため、カフェで時間を過ごすことが多かった。
放課後には毎週木曜日にある日本語クラブに参加し、日本に興味のある現地の学生と触れ合うことができた。また、大学主催ではないが、日本語・英語ランゲージエクスチェンジというイベントにも参加した。そこでは、年齢関係なく、またニュージーランド人だけではなくフランス人や中国人など様々な国籍の方ともお話しすることができ、とても良い経験になった。	金~日の休日を使用して、クライストチャーチを目一杯満喫できた。クライストチャーチゴンドラやウィローバンク動物園、ショッピングモール、ニューブライトンビーチなど、自然豊かな場所が沢山あり、どの場所も自分でバスを利用して行くことができた。
大学主催の日本語クラブで、ゲームをしたりたこ焼きパーティーをしました。	学内カフェ
週一にバレーに参加していた。観光。ホストの方たちと過ごす。勉強	
現地の日本語クラブへの参加	コンビニは少ないし高いので基本的にはなんでもスーパーで買い揃える。カフェも多いのでカフェを調べていくこともあった。

3. 留学前準備について

留学前に取り組んだ準備

私はグーグルアースというアプリを使って、事前に自分の行く大学の周辺や、ホームステイ先の周辺、学校までの道などを調べてから行きました。なので、とてもスムーズに余裕をもって行動できた気がします。

とにかくボキャブラリーを増やすこと、またリスニングは毎日短い時間でもいいので続け、耳を英語に慣らしておくこと。

リスニングの練習に取り組んだ。ニュージーランドの人々は比較的話すスピードが速いと言われていたので、リスニングを通して耳を少しでも英語に慣らしておくことをお勧めする。また、日常会話で使う英単語や会話フレーズも同時に覚えた。

毎日英語のニュースを見る

DMM 英会話、英単語勉強

日本の政治や最近話題のニュースについて調べ、聞かれた時すぐに答えられるようにした。また、ニュージーランドでのマナー、有名なものなどについても調べた。実際ホストマザーから日本の政治について聞かれることがあったので調べておいてよかったと思った。

いきなりだと聞き取れないのでリスニングで英語の耳にする。

留学前にしておけばよかったと思う準備

日本が今どのような状況なのか、例えば政治など、をもっと知ってから行くべきだったと思いました。ホストマザーやファザーはそういうことにとっても興味がある方だったので、そのような質問をされたときに、あまりしっかりと答えることができなかったことが少し悔しいです。

リスニングの音源を聴くだけでなく、外国の映画見て現地の英語のスピードに慣れておくこと。またニュージーランドにはアクセントの強い人もいたため、前もって現地の発音も聞いておくべきであったと感じた。

もう少し英単語を覚えて、語彙力を身につけておけばホストファミリーとの会話もよりスムーズにできたと感じている。

もっと単語を覚えておけばよかったと思いました。

リスニングの練習、英単語の勉強

リスニング、英単語をもっと勉強しておけばよかったと思った。最初はリスニング力がない上に訛りが強く理解するのに時間がかかり大変だった。また、語彙力がなく、思っていることをうまく伝えることができないということがたくさんありもどかしかった。

ボキャブラリーを増やすことや失礼にならない言い方など現地で知るのもいいが、ある程度知っていればよかった。

日本から持って行って役に立ったもの、または喜ばれたもの

お味噌汁です。日本の味が恋しくなった時に食べると、とても心が落ち着きます。お味噌汁は持って行った方がいいです。

洗濯ネットやシャンプー、化粧品や軟膏等は持っていったほうが良い。また、私のホームステイ先には小さい子供がいたため、お土産として知育菓子(ねるねるなど)を持っていったところ非常に喜ばれた。また何度も日本人を受け入れている方が多いため、あまり高価なものではなく日本のお菓子などで十分。

私のホストファミリーの家は、箱のティッシュが用意されてあったが、他ほとんどの家は用意されていないことが多かった。また現地の箱ティッシュは約5ドルで高いため、日本からいくつか持って行くほうが良い。ホストファミリーへのお土産として日本のお菓子と綿のハンカチを送ると、とても喜んでくれた。他、家で飾れる物(置物など)も喜ばれると思う。

緑茶ティーバック、リセッシュ、折りたたみ傘

ファブリーズ、コースター、変換器、モバイルバッテリー

思いの外寒かったのでダウンジャケットを持って行ってよかったと思った。慣れない環境で何度か体調を崩すことがあり風邪薬や頭痛薬も多めに持って行ってよかった。また、日本のお菓子がホストファミリーからすごく好評だった。私のステイ先では夕食後に毎回デザートを食べる習慣があり、デザートとして日本のお菓子を一緒に楽しんだ。

ばらばらのご飯はすぐに飽きるのご飯は持参してよかったと思った。マグやお菓子をお土産に持っていた。

日本から持っていく必要のなかったもの	日本から持参すればよかったと思ったもの
ドライヤーとバスタオルです。大体のホームステイ先には準備されていると思います。	ティッシュは多めに持って行った方がいいです。私はティッシュをもっていました。途中で足りなくなったので、現地で買いましたがとても高いので、もっと多めに持ってくればよかったなと思いました。
洗剤やドライヤー、タオルなどは貸してもらえるため持っていく必要はなかった。	風邪薬、箱ティッシュは多めに持っていったほうが良い。特に私は春学期間の留学であったため非常に寒く乾燥しており、何度か体調を崩した。ティッシュは一応売っているが、質が低く非常に高い(一箱3ドルから5ドル)。
ドライヤー、バスタオル、タイツ(冬でもそこまで厳しい寒さではなかった)	乳液などの保湿クリーム(個人差もあるが、とても乾燥し、肌が荒れた)
ハンガー、ドライヤー	ウェットティッシュ、ポケットティッシュ、サングラス、水着
特になし	耳かき、爪切り
私のステイ先ではマザーが洗濯してくれたので、洗剤、洗濯ネット、ハンガーはいらなかった。また、ドライヤーも部屋にあったので必要なかった。	普段使っているシャンプー、コンディショナーをボトルで持っていけばよかったと思った。ニュージーランドのものは合わない人が多いと思う。また、冬でも紫外線が強いのでサングラス、帽子、日焼け止めもあった方がよいと思う。
ハンガー	季節が冬だったのでもう少し服を準備すればよかったと思った。

4. 留学費用について

お金をどのように準備しましたか。	日本円でいくらぐらい準備しましたか。
チャージ式のクレジットカードと現金を持っていきました。	クレジットカードには10万、現金は8万持っていきました。
キャッシュは5万円ほど用意し、そのほかにはクレジットカードを持っていた。	現金5万円分、クレジットカード上限30万円。
日本円札を二万円、ニュージーランドドル札を150ドル、三井住友のクレジットカードを持って行った。	クレジットカード上限30万円
デビットカードと現金を少し換金しました。	デビットカード25万、現金5万
クレジットカード	クレジットカード上限20万 現金10万
クレジットカードと現金で用意した。ほとんどクレジットカードで支払いできるが、クレジットカードのみのお店、現金のみのマーケットなどもあるため、どちらも持ち歩いていると安心だと思う。	クレジットカード上限20万、現金10万
現金とカードを用意したが、現金はほとんど使わず大体はカード払いで済ませられる。	上限50万のカード、現金5万換金して持って行った

現地で支払った住居費と食費を教えてください。

毎週どこかに遊びに行っていたので、お昼ごはんやドリンク代などで大体3か月で3万ほどでした。

普通に外食すると一回に20ドルほどかかる。

外食費計5万円ぐらい

食費は月 5000 円～、直接払った住居費はなし

テキスト代と通学費はそれぞれいくらぐらいかかりましたか。

テキスト代は留学費用に組み込まれていたため、現地では払っていませんが、交通費はバスで3か月で約150ドルぐらいでした。

テキストは無料で配られ、通学のバス代は6月下旬まで一回1.6ドル、それ以降は一回2ドルになった。

通学は3か月で約70ドル。

通学費は2万円ぐらい

テキストは無料、交通手段はバスでどこへ行くにも値段は変わらず0.5ドルほどだった。

出かける頻度にもよるが、通学費は月5000円前後ぐらい

その他旅行や買い物など個人的費用は何にいくらぐらいかかりましたか。

持って行ったお金はすべて使い切ったので、10万以上は使っていると思います。

洋服や日用品、お菓子などを買い300～400ドル程度。

日本円で約13万程。

旅行や買い物合わせて20万ぐらいでした。

20万円ぐらい(娯楽、ショッピング、スポーツ観戦、旅行)

20万円ほど

月40000～80000円ほど

5. 学習面について

語学力・コミュニケーション能力の自己分析

ホストファミリーとの会話は毎日頻繁にしていたので、日常会話のスピーキングレベルは向上したと感じます。そして、授業内での基礎的な文法力も、今まであやふやだった部分はしっかりとおさえることができましたと思います。

リスニング力は向上したように感じる。スピーキング力も留学前と比べ向上したと思うが、何よりも「英語を臆さずに喋る」という言葉を学ぶ上で最も重要マインドが身についたと思う。また、同時にコミュニケーション能力も上がったように感じる。

この留学を通して、英語で話すということへの抵抗感が完全に無くなったと感じる。完璧な文法や単語とらわれずに、とりあえず話し続けることが大切だということを学んだ。ホストファミリーとの生活はもちろん、学校のクラスやイベントを通じて、沢山の種類の英語に触れ、会話を重ねることで、英語で会話するということへの楽しさを実感した。

最初は英語で話しかけるのも話しかけられるのも緊張し不安でしたが、だんだん慣れていき自分から話しかけたり、イベントなどに積極的に参加することもできるようになりました。

リスニング力は少し上がった、コミュニケーション能力は今回の留学でとても上がったと思う。

留学前に比べてリスニング力、コミュニケーション能力が格段に上がった。特にリスニング力は毎日ホストファミリーと会話をすることでどんどん聞き取ることができるようになっていたことを留学中にも感じる事ができた。

そこまで英語での会話力の伸びは感じなかった。ただ、元々たくさん話すタイプではなかったが、留学前より英語で話すときにコミュニケーション能力が伸びたと思う

留学前の目標とその達成度

留学前の目標はスピーキングレベルを上げることだったのですが、かなり達成できたと感じます。毎日、英語で会話しているおかげで、喋る内容が最初の時よりも高度な内容(政治・自分の意見など)について話すことができるようになっていました。また、リスニング力も上がったと思います。ニュージーランドの人は発音が少し違うので、最初聞き取ることが難しかったのですが、最後へんはほぼ聞き取ることができるようになっていました。

できる限りたくさんの人と会話をするという目標は80%ほど達成できたと思う。達成できなかったと感じる残り20%は、どうしても日本語を話してしまう時間があつたから。

この留学の目標は2つあり、1つ目は英語力を向上させること、2つ目は何か新しいことに挑戦することだった。私はこの2つの目標どちらも達成できたと思う。1つ目の目標は学校やホストファミリーとの生活で達成できたと感じる。2つ目の目標は、ラインダンスに参加したことだ。私はホストマザーが行っているラインダンスサークルに参加したいと頼み、時間がある日は練習に連れて行って貰った。最初はとても緊張したが、ラインダンスの先生や仲間達、ホストマザーのおかげですぐに馴染むことができ、最後はラインダンスの発表会にも参加させて貰い、とても素晴らしい経験になった。このラインダンスに挑戦して良かったと心から思う。

留学前は日常会話ができるようになることが目標で、難しい話題でなければ話せるようになりました

いろいろな人と関わる 70%

留学前は語学力はもちろん、行動力を高めるということを目標にしていたが、100%達成することができたと思う。留学先では新しい経験をしてみよう、たくさんの人に会おうという気持ちを常にもって行動することができた。

劇的に成長できたわけではないが、価値観や物おじせず自分から話しかけることに挑戦できた。

留学を通しての成長ポイント

スピーキングやリスニング力が上がったことはもちろん、自分自身も成長したと感じます。母語が使えない国で、一人でバスに乗ったり買い物したり、わからないときは聞いたり、と自分自身の行動力も成長したと感じます。

どんな国の人にも積極的に話しかけ、英語を用いているんなトピックについて話せるようになった。コミュニケーション能力も身につく、完璧とはいかずとも、普段の生活(道を尋ねたり注文したりなど)は特にトラブルなくできる英語力が身についた。

私はこの留学を通して、柔軟性と多様性が身についた。学校の授業でのグループディスカッションや現地の方々との会話では、多様な国籍の人と話す機会が多くあり、もちろん自分と反対意見や異なる視点からの考え方を沢山聞き、学んだ。これらの経験から、まずは相手の意見を否定せずに受け入れ、それを踏まえて色々な視点から物事を考えるということを意識するようになった。そうすることで今まで自分が知らなかったことに気づけたり、全く新しい発見をすることができた。今後もそれを実行していこうと思う。

自分から勇気を出して色々なイベントに参加したり、話しかけたりしたので積極性が身についたと思います。

基礎文法はしっかり固めることができた。コミュニケーション能力は上がった。

新しいことに興味を持ち、失敗を恐れず挑戦する力が身についたと思う。たくさんの人との出会い、新たな経験を通して新しいことに挑戦することの楽しさに気づくことができた。また、留学先では困ったことがあっても全て自力で解決しなければならないため、その経験が自信につながり何事にも失敗を恐れず挑戦することができるようになった。

リスニングが苦手でも TOEFL や TOEIC でも克服すべきところだったが、留学中に TOEFL のリスニングをしてみて耳に入ってくる情報の量が変わった。

留学前/留学中/留学後の語学学習に対するモチベーションの変化

前よりもモチベーションは高まったと思います。留学後にしていることの例として、留学中で習ったことを忘れないようにするため、授業でメモを取っていた教科書は机の上いつでも見れるように置いています。寝る前や、暇などに見返したりしています。そして、ホストマザーと積極的に SNS を使ってメッセージのやり取りもしています。

留学前はあまり強く意気込んでいなかったが、留学中ホストファミリーやいろいろな人と話すうちに自分の考えをしっかりと伝えられるくらいの英語力を身につけたいと考えるようになった。将来海外で生活したいと考えているので、この気持ちを忘れないように勉強に励みたい。

この留学を通して、英語学習に対するモチベーションは著しく向上した。なぜなら、英語を使って外国人の人々と会話するという楽しさを覚えたからだ。今後も勉強に専念し、更に流暢に外国人と会話できるようになりたい。
留学前はモチベーションがあまり高くありませんでしたが、留学中はモチベーションが上がり、留学後はさらにモチベーションが上がりました。
実際英語の国に来て、いかに自分の英語能力がまだまだかを痛感した。ネイティブのひとは本当に話すのも速いし、もっと勉強しないとイケないと留学来てから思った。
留学前は日本語が全く通じない場所へ行くという不安から英語を勉強していたが、留学後はホストファミリーや現地の人々、他国から来た留学生ともしっかりコミュニケーションをとれるようになりたいという気持ちから留学前に比べてモチベーションが上がった。現在もそのモチベーションを保つことができている。
3ヶ月もない期間だけで英語力を格段に上げることは難しいが、環境が変わるだけで留学前よりは英語への耐性がついた。

留学中 100%力を振り絞った瞬間

ホストファミリーと会話するときです。なるべくたくさん会話したいので、自分から積極的に話しかけたり、話題を出したりしていました。私にとっては、人とのコミュニケーションがあまり得意な方ではなく、それが英語でとなるとなおさら難しかったので、とても努力しました。
自分たちで旅行をした時
100%の力を振り絞った瞬間は、学校のラウンジで初めて自分から外国人に話しかけに行った時だ。その時の私はとても緊張していて話しかけようか迷っていたが、勇気を出して話しかけに行った。その人達はニュージーランドに2年前から滞在しているイラン人の方で、とても優しく接してくれ、ニュージーランドでおすすめのお店や英語の勉強に役立つYouTubeの動画などを教えてくれた。この経験から、何事にも恐れず自分から飛び込んでいくことの重要性を学んだ。
ホストファミリーと旅行に行く際に宿泊や金額の話が理解できず、理解できるまで何回も聞き返し、質問した時。
アクティビティなどに参加したこと。スポーツが好きなのでスポーツに関わるアクティビティや学校主催の行事のは参加した。
急用でホストファミリーが数日間家を空けることがあり、その時一緒に家に泊まってくれた同年代の現地の女の子と過ごす間に力を使った。数回しか会ったことがなかったため、自分から積極的に話しかけて距離を縮めていった。また、話すスピードが早く必死に聞き取っていたので、その数日間ですり込み力が上がったと思う。
英語で難しいことを説明するときに突然全く言葉や単語が出てなくなった瞬間に、なんとか理解してもらおうとシンプルに考えて遠回しの言い方でも話し続けようとしたこと。また、支払いのトラブルがあったときに電話だけで英語の説明と理解をしたこと。

留学先大学の良かった点

先生が何より丁寧にコミュニケーションの時間を多くとってくれた。
授業内でペアワークやディベートが多かったため、他国から来た留学生とたくさん交流会することができて良かった。また、自習スペースにテキストや映画がたくさん置いてあって充実していた。
実用的な英語を多く教えてくれる。行事やアクティビティが多い。
色々な面でのサポートが手強かった。歯医者に行かなければならなかった時に歯医者の予約や保険などしてくれました。
留学先大学の先生達がとても優しく、学校で迷子になったり、分からないことがあれば迅速に丁寧に教えてくれるので頼りがいがあった。
授業が厳しすぎず、アクティビティやゲームを通して学ぶことが多かったため楽しく勉強を続けることができた。
留学先大学での良かった点は、建物がきれいだったこと、日本語ペラペラの先生がいたのでいろいろなことを相談しやすかったことです。